

- 3Dプリンターで作成した立体模型の活用により、これまで共有が難しかった施工イメージを可視化。情報共有の円滑化につながった。
- 土木課内での活用にとどまらず、他課事業にも協力。第31回全国山城サミット益田大会（以下、「山城サミット」）に向けて立体模型を出力し、七尾城の普及啓発につなげた。

課題

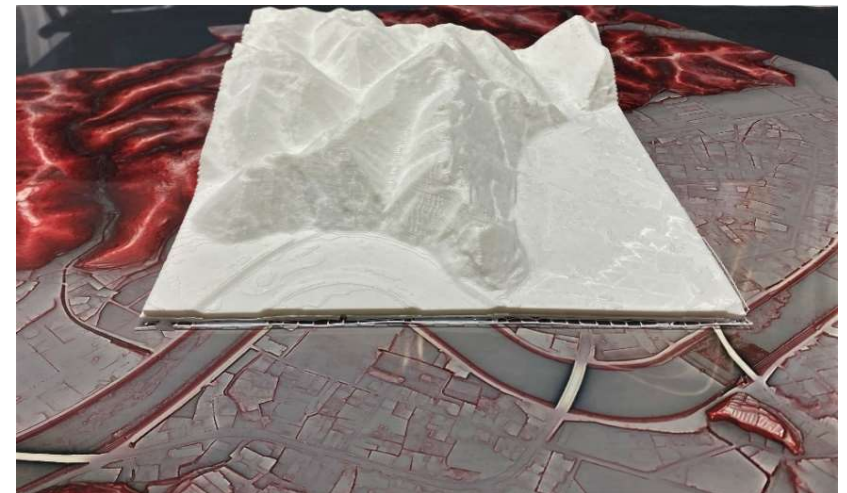
- 地元地域住民に事業内容を確認してもらい、明確なニーズを把握する必要がある。

取組

- 3Dプリンターで作成した立体模型で事業内容を共有。
（立体模型作成例：道路の陥没箇所）

成果

- 事業内容を立体模型にすることで、全体形状のみならず詳細についても理解度を深めることが可能となった。
- 関係者全員での情報共有ができ、行き違いや誤認が減少し、事業に対する共通認識の構築が容易になった。
- 文化振興課から依頼を受け、山城サミットに向けて七尾城跡の立体模型を出力。立体化することにより、視覚の弱い方でも形状が理解できる効果があるとの評価を受け、他課事業での活用可能性の発掘につながった。



3Dプリンターで作成した立体模型（七尾城跡周辺）